

# 加茂市中小企業景況調査報告(平成26年1月～3月期)

DI平均値は、前期(10～12月期)の△28.6ポイントから6.0ポイント回復し、△22.6ポイントとなった。建設業で20ポイント回復し、製造業、卸売業でも若干の回復が見られたが、サービス業で8ポイントの悪化となった。

業種 項目		建設業		製造業		卸売業		小売業		サービス業	
		1～3月	4～6月	1～3月	4～6月	1～3月	4～6月	1～3月	4～6月	1～3月	4～6月
		今期状況	見通し	今期状況	見通し	今期状況	見通し	今期状況	見通し	今期状況	見通し
売上高		△ 31 (△ 19) 	△ 41 (△ 46) 	△ 14 (△ 19) 	△ 46 (△ 39) 	△ 22 (20) 	△ 37 (0) 	△ 41 (△ 45) 	△ 61 (△ 24) 	△ 26 (5) 	△ 15 (△ 5) 
採算		△ 31 (△ 36) 	△ 34 (△ 27) 	△ 21 (△ 36) 	△ 42 (△ 36) 	△ 11 (△ 20) 	△ 22 (△ 30) 	△ 52 (△ 50) 	△ 54 (△ 36) 	△ 42 (△ 35) 	△ 32 (△ 27) 
資金繰り		△ 35 (△ 18) 	△ 45 (△ 18) 	△ 12 (△ 12) 	△ 27 (△ 17) 	0 (0) 	△ 22 (0) 	△ 44 (△ 41) 	△ 42 (△ 38) 	△ 22 (0) 	△ 24 (△ 22) 
業況		△ 16 (△ 36) 	△ 24 (△ 22) 	△ 10 (△ 17) 	△ 33 (△ 27) 	0 (△ 11) 	△ 50 (△ 30) 	△ 48 (△ 48) 	△ 61 (△ 36) 	△ 39 (△ 31) 	△ 38 (△ 32) 
経営上の 当面する 問題点	1位	請負単価の低下		需要の停滞		需要の停滞		購買力の他地域への流出		需要の停滞	
	2位	材料価格の上昇		原材料価格の上昇		販売単価の低下		消費者ニーズの変化への対応		人件費以外の経費の増加	
	3位	官公需要の停滞		製品(加工)単価の低下		人件費以外の経費の増加		需要の停滞		材料等仕入単価の上昇	
業種別 コメント		<p>今期は季節的な要因もあり業界全体で仕事量が減少する時期であったが、消費税引き上げ前の駆け込み需要や災害復旧関連工事等により業況DI値は20ポイント回復した。</p> <p>来期は消費税引き上げ前の駆け込み需要の反動により、需要の停滞が懸念される。</p>		<p>資金繰り以外の項目は若干回復傾向となった。年度末、消費税引き上げ前の駆け込み需要等の影響と思われる。</p> <p>しかし、原材料価格の高騰、製品単価の低下は依然続いており来期の見通しは全項目で悪化となった。引き続き積極的な営業活動による付加価値の高い受注の獲得が必要である。</p>		<p>建設業、製造業の回復により、関連企業のDI値が回復した。</p> <p>但し、来期の見通しは売上高で37ポイントは売上高で37ポイント、業況DI値も20ポイントの悪化となっており先行きに若干の不安が残る。</p> <p>競争を生き抜くために業界の動向を調査、分析し、提案型の営業を続ける必要がある。</p>		<p>消費税引き上げ前の駆け込み需要も少なく全項目ともにほぼ横ばい状態であった。</p> <p>来期も消費税引き上げによる一時的な需要の停滞が予想され厳しい状態がしばらく続きそうである。</p> <p>消費者ニーズにあった品揃えや独自のサービスなどにより大型店との差別化を図ることが今後も必要である。</p>		<p>新年会や年度末の送別会などのイベントが多い時期であったが、消費が伸び悩み全項目で悪化となった。</p> <p>また、経営上の問題点では材料、仕入単価、諸経費の増加など利益を圧迫する問題があがっており、来期も厳しい状況が続くと思われる。</p> <p>各店で接客方法の見直し、セールストークによる客単価の引き上げなど、経費のかからない取り組みから始めてみるのが大事である。</p>	



よく好調  
(50 ≤ DI)

好調  
(25 ≤ DI < 50)

まあまあ  
(0 ≤ DI < 25)

不振  
(△ 25 ≤ DI < 0)

きわめて不振  
(DI < △ 25)

※当所では分析にあたってD・I(好転したとする企業割合から悪化したとする企業割合を差し引いた値)を採用しました。

※( )は前回調査時のD・I値